

# 令和3年第2回市議会定例会一般質問一覧表

1 日 時 令和3年6月23日(水) 午前9時30分  
令和3年6月24日(木) 午前9時30分

## 2 質問者 (質問順)

- |               |     |                  |
|---------------|-----|------------------|
| (1) 新緑水クラブ    | 40分 | (1 井上正人、2 加藤菊信)  |
| (2) 市友会       | 20分 | (3 工藤政明)         |
| (3) 公明党       | 40分 | (4 神野久美子、5 井上純一) |
| (4) 日本共産党議員団  | 20分 | (6 近藤美保子)        |
| (5) 子どもたちに青い空 | 20分 | (7 村瀬進治)         |
| (6) 東海市民の声    | 20分 | (8 間瀬友浩)         |

## 3 質問事項、要旨及び項目

質 問 者	1 井上正人議員 (新緑水クラブ)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 新型コロナウイルス感染症対策について	1 本市では個別でのPCR検査の陽性者は出るもののクラスター感染の発生がなく、大変良いことだが、本市の考えを問う	(1) 新型コロナウイルス感染症陽性者が知多半島では半田市に多いが、クラスター感染は出ていない。どのような対策が功を奏しているか、本市の考えを問う	
	2 新型コロナウイルス感染症対策にはワクチン接種が大変有効だが、本市のこれまでの取組と今後の課題について問う	(1) ワクチン接種予約をコールセンターに集中する方式としたメリット及びデメリットは何か (2) 本市は最初、個別接種に参加した開業医が少なかったが、その原因は何か (3) 本市の集団接種にご協力いただいている医師、看護師はどのような体制か	
2 ランの道について	1 中日新聞に取り上げられて注目を浴びているランの道について、春から秋にかけてシランや着生ランが咲くようになり、花を見に来る人も増え、観光資源としての価値が高まっていると考えるが、今後どのような取組が必要か本市の考えを問う	(1) 令和3年度で駅東歩道でのシランの植栽がほぼ全域にできた。令和4年の開花が楽しみだが、今後の取組は何か (2) 芝生広場やどんでん広場に比べ駅東歩道の散水栓の水圧が弱い原因は何か。また、対応策はあるか	
	2 令和3年6月5日に再度の株分け植栽会が行われたとき、タイミングよく着生ランが咲いていた。また、令和2年も令和3年もシランの苗を持ち帰ってもらったが、今後の取組方法はどうかを問う	(1) 植栽に参加した方は、一様に着生ランがきれいに咲いていることを楽しんでいたが、令和4年以降の植栽会の在り方は何か	

<p>3 木田城跡の普及啓発について</p>	<p>1 平成30年度に実施した木田城に関するシンポジウムにおいて報告され、池田輝政との関わりが明らかとなった木田城跡について、その後の調査状況と普及啓発について問う</p>	<p>(1) 木田城跡についての調査結果はどのようなものか。また、新たに判明したことはあるか  (2) 全国的にも有名な戦国大名である池田輝政と関わりのある木田城跡について、現地に看板を設置する等、積極的に普及啓発していく考えはあるか</p>	
------------------------	---	---	--

質 問 者	2 加藤菊信議員 (新緑水クラブ)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 職員間のコミュニケーションについて	1 例年であれば新入職員の研修会や歓迎会等でコミュニケーションを図ったりしているが、ここ2年新型コロナの関係でそれらができないのが現実と思う。職員間を含め、どのようにコミュニケーションを図ってきたのか。また、職員のスキルアップのための県外への研修会の受講状況を問う	(1) 先輩職員と新入職員とのコミュニケーションをどのように図ってきたのか (2) 花田新市長になり職員と新市長とのコミュニケーションは極めて重要と考えるが何か手立てを考えているのか (3) 職員間のコミュニケーションは従来、互助会による福利厚生イベントで図っていた部分もあると思うがどのように対応したのか (4) 各部署において中止になった研修の数とその内容はどのようなか。また、Web研修の参加数と、今後の対応を含め問う	
2 東海市の想定最大規模降雨の対策について	1 令和3年の3月に愛知県が想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域等を公表したが、本市への影響はどうか。また、5月20日に災害対策基本法が改正され避難情報等が変更されたが、市民への継続的周知方法と防災計画の見直しについて問う	(1) 県が想定最大規模の降雨による洪水浸水想定区域等の公表をしたが本市への影響はどのようなか。また、ハザードマップの見直しも必要と思うがどうか、そして市民への周知をどのように考えているか (2) 以前は気象庁発表の大雨洪水警報・注意報の発表基準が各市町によって異なっていたが現在はどうか (3) 避難情報等が変更されたことにより職員の配備等、防災計画の見直しも必要と思うが具体的にどのような対応をするのか。また、継続的な市民への周知をどう考えているか	

<p>3 消防団員について</p>	<p>1 新型コロナ禍において消防団員に関する、いろいろな行事の縮小・中止が余儀なくされている中、操法技術の習得や団員同士の連帯感の低下等が心配されるがどのように対応しているか。また、緊急事態を想定すると消防団員に対しても消防署員同様、早期にワクチン接種を行う必要があると考えるが所感を問う</p>	<p>(1) 令和2年と令和3年に入退団した消防団員の人数は各分団どうなっているか  (2) 令和2年は市・県の操法大会が中止となり練習もできなかったと聞いているが操法技術の継承をどう行ったのか  (3) 令和3年は県の操法大会が行われると聞いているが、本市が早期に不参加を決めた理由は何か  (4) 緊急事態を想定すると消防団員も消防署員同様、早期に新型コロナワクチン接種を行う必要があると考えるがどうか</p>	
<p>4 本市のご当地ナンバーについて</p>	<p>1 施政方針に挙げられた「ふるさと東海市を誰もが誇れるまちに」の一環として、また文化財や観光資源の普及啓発として、新市長が誕生したこの時期にこそ本市の原動機付自転車等のご当地ナンバーを市民参加型で作るべきと考えるが所感を問う</p>	<p>(1) 近隣市町で原動機付自転車等のご当地ナンバーを作製しているところはどこか。また、今まで本市がご当地ナンバーを作らなかった理由はなにか  (2) 新市長が誕生したこの時期にこそ文化財や観光資源の普及啓発として、市民参加型で本市のご当地ナンバーを作るべきと考えるがどうか</p>	

質 問 者	3 工 藤 政 明 議 員 (市友会)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 特殊詐欺被害の防止策について	1 特殊詐欺と呼ばれる、電話等を用いて対面することなく信頼させ、指定した預貯金口座への振り込みやその他の方法により不特定多数の者から現金等をだまし取る犯罪が、依然として高い水準で発生し、後を絶たないと聞いている。本市における特殊詐欺の発生状況について問う	(1) 平成29年以降の認知件数及び被害総額は、どのような状況なのか (2) 令和2年の認知件数及び被害総額を手口別に見た場合、どのような状況なのか。また、本市における被害で、犯行の最初に用いられた、人をあざむきだます手段は、どのようなものがあるのか	
	2 今後も多様化が予想される犯罪手口に対して、市民が被害者とならないための被害防止策について、本市の考えを問う	(1) 本市を管轄する警察署との連携が不可欠と考えるが、東海警察署との連携は、どのように行われているのか (2) コロナ禍の中で、これまで効果的とされていた、高齢者への対面による注意喚起や啓発が難しい状況にあるが、これを補う方策は考えているのか (3) 通話を録音する等の防犯機能が備わった電話機の導入効果が注目されているが、本市において、防犯機能付き電話機等の普及を図る考えはあるのか	
2 まちの環境美化の推進について	1 まちの環境を美化し維持するためには、家庭から排出されるごみを適正に収集することは不可欠と考える。ごみ集積場所の設置及び管理について、本市の状況と考えを問う	(1) ごみ集積場所の設置及び管理に関する要綱を全部改正しているが、改正に至った理由は何か (2) ごみ集積場所を設置している町内会等に対し、ごみ集積場所の適正な維持・管理について、どのような支援を行うのか	

	2 ごみ散乱防止市民行動月間の6月の第一日曜日を市内一斉清掃日と定め、市民のごみに対する意識及びモラル向上を図ることを目的として実施している市内一斉清掃について、状況と本市の今後の考えを問う	(1) 平成22年度に市内一斉清掃を実施して以降、道路等の一般的なごみの回収量の減少をはじめとする取組の効果は、どのような状況にあるのか (2) コロナ禍の中で、これまでのように一斉の清掃活動を行うことが難しい状況にあるが、今後の市内一斉清掃の実施方法をどのように考えているのか	
3 外来種の拡大防止策について	1 外来種と呼ばれる、他の地域から持ち込まれた生き物は、地域本来の生き物の捕食や競合等によって生態系を乱す恐れがあり、愛知県は対策が必要な外来種30種を掲げ、県民に見分け方や対策等の情報を発信している。本市における外来種の状況及び拡大防止策について問う	(1) 本市で確認されている対策が必要な外来種は、どのようなものがあるのか。また、外来種に関する市民からの相談は、どのようなものが寄せられ、どのような対応を施しているのか (2) 市民が安易に外来種を増やすことがないように、対策が必要な外来種に関する注意喚起や啓発は、どのような方法や頻度で行われているのか (3) 西知多産業道路の沿線や法面に群生するオオキンケイギクの防除には、道路管理者をはじめとする関係機関の協力が必要と考えるが、オオキンケイギクの防除に向けた協議は行われているのか	
4 自殺対策について	1 平成29年7月に閣議決定された自殺総合対策大綱を踏まえた基本方針の推進を掲げて、誰も自殺に追い込まれることのない東海市を目指すことを基本理念とし、令和3年3月に改訂された東海市自殺対策計画について、改訂の経緯及び今後の取組を問う	(1) 本市の現状をまとめた結果から、子ども・女性に対する自殺対策が特に必要とした理由は何か (2) 子どもから高齢者まで切れ目のない対策を推進するため、関係各課等がそれぞれ、もしくは連携した取組を推進することとなるが、総合的な自殺対策の進捗確認や取りまとめを、どのように行うのか (3) これまで9月の世界自殺予防デーや自殺予防週間、3月の自殺対策強化月間に因んだ啓発活動を街頭で行ってきたが、コロナ禍の中で、街頭での啓発活動を行うことが難しい状況にあるため、今後の啓発活動をどのように考えているのか (4) 自殺に追い込まれるという危機は誰にでも起こり得るという観点から、自殺についての誤解や偏見をなくし、正しい知識を啓発する取組が重要と考えるが、具体的な方策は立案されているのか	

5 学校給食について	1 新型コロナウイルスの感染拡大が県内漁業者等に与えた影響により、在庫が滞留している県産水産物を学校給食用の食材として提供する事業が県主導のもとで進められていることについて、本市の状況と考えを問う	(1) 県内漁業者等への支援の他、どのような目的や効果があると捉えているのか (2) どのような水産物がどのように提供されているのか。また、食した児童生徒の反応は、どのようなか	
	2 学校給食には、日常生活における食事の大切さと楽しみを理解し、望ましい食生活習慣を養うことで生涯にわたって健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育ていける基礎をつくる目的があると考える。その学校給食で発生している食べ残しについて、本市の状況と今後の考えを問う	(1) 令和2年度の食べ残しの量は、どのような状況なのか (2) 食べ残しの回収もしくは処理は、どのように行われるのか (3) 学校給食と一緒に提供されている牛乳について、平成29年度以降の未開封及び飲み残しの量は、どのような状況なのか。また、回収もしくは処理は、どのように行われているのか (4) 学校給食における児童生徒の嗜好及び食べ残される食材の傾向は把握しているのか (5) 食べ残しの量を減らすために、どのような取組が行われているのか	



質 問 者	4 神 野 久美子 議 員 (公明党)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 女性の働きやすい環境整備について	1 小学校の放課後児童健全育成事業における小学校の長期休暇時の受け入れ時間について問う	(1) 近隣市町において、午前7時半から児童を受け入れている自治体はあるか (2) 保育園では早朝からの受け入れがあるが、小学校では午前8時からの受け入れとなり職場の始業時間に間に合わない等の声が多くあるが、午前7時半からの受け入れを実施する考えはあるか	
	2 保育園児の使用済おむつの持ち帰りについて問う	(1) 保育園における使用済おむつの持ち帰りについて、保護者から保育園での処分等の要望を受けたことはあるか。また、具体的な要望内容はどのようなか (2) 利用者サービスの向上として、使用済おむつを保育園で処分する考えはあるか	
2 「生理の貧困」に対する支援について	1 経済的な理由等で生理用品を購入できない「生理の貧困」の本市における状況及び支援策について問う	(1) 本市における「生理の貧困」の状況について、どのように把握しているか (2) 学校における「生理の貧困」に対する支援として、小中学校の女子トイレに生理用品を置く考えはあるか (3) コロナ禍を機に生理に関する格差の問題が可視化されたが、現在、本市が行っている支援はどのようなか。また、今後の持続的な支援についての考えはどのようなか	
3 特別支援学級について	1 心身に障害がある児童生徒に合った教育を行うために設置されている特別支援学級の運営状況及び教員への支援等について問う	(1) 特別支援学級の10年前と現在を比較したクラス数の変容はどのようなか。また、授業、放課の時間を問わず子どもから目を離せない状況が生じているとも聞くが、学校の現状はどのようなか (2) 学校の現状を踏まえた対策についての考えはどのようなか	

4 ヤングケアラーについて	1 病気の親の世話や家事等に追われる18歳未満の子どもは、ヤングケアラーと呼ばれ、社会問題となっているが、就学と両立する負担が大きく、子どもの健やかな成長に望ましくない影響を及ぼしているため、本市の現状及び支援の考えについて問う	(1) ヤングケアラーについて、関連する部署が連携し、支援を行う必要があると考えるが、現在の支援策はどのようなか。また、今後の新たな支援策の検討状況はどのようなか	
5 青少年育成センターについて	1 令和2年4月1日から青少年センターの廃止により事業移管を受けた青少年育成センターの活動内容とあり方について問う	(1) 街頭パトロール活動、青少年健全育成講演会、居場所づくり推進事業等の実施状況及び成果はどのようなか (2) 令和2年度の青少年に関する相談件数及び相談内容はどのようなか (3) 青少年育成センターの現状の課題について、どのように考えているか。また、今後、新たに実施を検討している取組はあるか	

質 問 者	5 井 上 純 一 議 員 (公明党)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 ポストコロナを見据えた経済対策について	1 ポストコロナ時代を見据えて、新分野展開や業態転換、事業・業種転換等の意欲的な取組を通じて、労働生産性の向上を目指す中小企業等を支援する補助金として事業再構築補助金が創設された。そこで、市内事業者が積極的に挑戦できるように後押しする本市の取組について問う	(1) 2021年3月8日及び16日に東海商工会議所が、事業再構築補助金説明会を開催したが、参加した事業者の申請状況をどのように把握しているのか (2) 事業再構築補助金を申請した市内事業者に対して、市独自の補助金を出して事業再構築への挑戦を後押しすべきと考えるがどうか	
2 社会的孤立対策について	1 新型コロナウイルス感染症の影響で、社会的孤立問題がさらに深刻化してきており、政府は、2021年2月に「孤独・孤立対策担当室」を設置した。最大の課題は、「助けて」と簡単に言えない人たちの小さなSOSを如何にキャッチし、伴走型支援につなげるかである。そこで、本市の社会的孤立対策に関する取組について問う	(1) 電話・対面相談に加えて SNS等あらゆる手段を活用して小さなSOSをキャッチする体制を整備すべきと考えるがどうか (2) 相談窓口の担当職員のゲートキーパー養成研修の実施状況はどのようなものであるか。また、今後の取組はどのようなものであるか	
	2 2020年、小中高生の自殺者数が過去最多となった。政府が3年前に2度にわたって児童生徒の自殺予防に向けて「SOSの出し方に関する教育」の推進を求める事務連絡を教育委員会に発出しているが、これまでの本市の実施状況及び今後の取組について問う	(1) コロナ禍による本市の児童生徒の心身への影響はどのようなものであるか (2) 本市の「SOSの出し方に関する教育」の実施状況はどのようなものであるか。また、長引くコロナ禍において今後どのように対応するのか	

<p>3 待機児童対策について</p>	<p>1 本市では、認定こども園や小規模保育施設等が続々と開設され、未満児保育の民間事業者への移管が着実に進んでいる。しかし、一方で、保護者が安心して育児休業を活用できるように導入された「育児休業明け入所予約」が、民間保育施設にとって、財政的な重荷となっている。待機児童解消のためには、民間事業者の新規参入を促進すると同時に経営面のサポートも必要と考える。そこで、本市の取組について問う</p>	<p>(1) 本市の過去3年の待機児童数及び育児休業明け入所予約の利用状況はどのようなものであるか  (2) 育児休業明け入所予約の導入の効果をどのように評価しているのか。また、課題は何か  (3) 保育の質を維持しながら待機児童を解消するためには、さらなる民間事業者の新規参入を促進すると同時に経営面のサポートも必要と考えるがどうか</p>	
<p>4 情報格差解消について</p>	<p>1 花田市長の公約に「市役所に行かなくてもスマートフォン一つで様々な手続きができる行政のデジタル化を目指す」とある。公約を実現するためには、高齢者を対象にした情報格差解消への支援が必要と考える。そこで、本市の取組について問う</p>	<p>(1) 情報格差解消に向けての本市の取組はどのようなものであるか  (2) スマートフォン等の操作に詳しい高齢者を「デジタルサポーター」として登録し、市町村に派遣する県の事業に積極的に参加すべきと考えるがどうか</p>	

<p>5 訪問理容について</p>	<p>1 2017年に厚生労働省が都道府県に発出した事務連絡「在宅の高齢者に対する理容・美容サービスの積極的な活用について」では、高齢社会が進行する中で、在宅の高齢者が理容・美容のサービスを受けることは、心身をリフレッシュさせる等、生活の質(QOL)の維持、改善に資する面があり、市が、理容業生活衛生同業組合等と連携して、積極的に推進することを求めている。そこで、近年益々ニーズが高まっている訪問理容への支援について問う</p>	<p>(1) 在宅介護の高齢者へのこれまでの支援はどのようなものであるか  (2) 本市においても、近隣市町と同様に、在宅介護を受けている方への訪問理容に関する支援を実施すべきと考えるがどうか</p>	
-------------------	--	--	--

質 問 者	6 近 藤 美保子 議 員 (日本共産党議員団)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 らんらんバスの利便性向上について	<p>1 公共交通の施策は移動困難者の解消というだけではなく、福祉、医療、教育等をつなぐ基盤である。平成30年に実施した地域からの意見聴取において市全体で運行頻度の増加及び路線新設・延伸の意見が半数を超えていた。しかし、令和2年ダイヤ改正に意見が反映されず、多くの高齢者が買い物等外出に困る状況になり、市民から不便になったという声が多い。また、中コースのノンステップバスは故障も多く、手押し車利用者や買い物する高齢者等は乗降車時に苦勞している。</p> <p>そこで、市の対応を問う</p>	<p>(1) らんらんバスの故障が多発しているが、故障の原因、及び更新時期はどのようなか。また、新たに市として、ノンステップバスを購入すべきではないか</p> <p>(2) らんらんバスのダイヤ改正を新駅設置、養父森岡線開通等を待たずに、早期に一旦、改正前のダイヤに戻すべきではないか。さらに、1時間に1本の増便を図るべきではないか</p> <p>(3) 後期高齢者医療証の提示は不正利用の防止に有効としているが、市民を信頼し、市民であることがわかる無料乗車証発行でよいのではないか</p>	

<p>2 名和地域におけるスーパー等の誘致について</p>	<p>1 国道302号の北側、名和地域にはスーパーが一軒もない。高齢者等を中心に食料品等日常の買い物が困難な状況にある。早急に買い物難民の対策が必要である。</p> <p>毎日の食を支える拠点ともなるスーパー等誘致することで、歩行や自転車での買い物も増え、地域の中で人の流れができ、顔が見えるまちとなると考える。市長が掲げる東海市のまちづくりにもなると考える。</p> <p>そこで、市の具体的対応について問う</p>	<p>(1) 国道302号の北側の名和地域を買い物困難地域と認識しているか</p> <p>(2) まちづくりの観点からスーパーを誘致するべきではないか。また、産地直売所等を運営している農業協同組合に働きかけてはどうか</p> <p>(3) 名和地域にある公共施設を利用したの販売を行うことを考えてはどうか</p>	
-------------------------------	---	--	--

<p>3 加齢性難聴者の補聴器購入の支援について</p>	<p>1 国立長寿医療研究センターが行った調査によれば、全国の難聴有病者は65歳以上で約1,500万人、実に45%である。また、日常生活に支障をきたす程度の難聴者は、70代男性で5人から6人に1人、女性で10人に1人程度となっている。難聴は、見た目にはわかりにくく、人に会うのが億劫になって引きこもってしまう場合も多い。新オレンジプランでも難聴が認知症の危険因子の一つに挙げられている。しかし、補聴器は年金等で暮らす低収入の高齢者には手が届かないほど高額である。今、補聴器の使用を促進するために、補聴器購入費を補助する自治体が広がりつつあり、市の支援策について問う</p>	<p>(1) 加齢性難聴が、認知症の重要な危険因子の一つに挙げられている。早期からの補聴器使用の重要性と認知症の危険因子との認識はどのようなか  (2) 難聴の早期発見のための聴力検査が重要であり、特定健診の項目に加えるべきではないか  (3) 高齢者の生活を支援し、社会参加を促進するために軽度・中等度の難聴者に対し、補聴器購入費の助成を行うべきではないか</p>	
------------------------------	--	---	--



質 問 者	7 村 瀬 進 治 議 員 (子どもたちに青い空)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 市民との対話の場について	1 3代目市長20年の長期政権が終わり、新市長が誕生したなか、周辺市町は、より良いまちづくりを推進するため、活発に活動している。このような状況のなか、市民との対話を行うことに対する考えについて問う	(1) 3代目市長は、市長在任期間の20年間において市民対話集会を行わなかったが、新市長は副市長等と手分けをして、12か所のコミュニティ等に出向き、市民と気軽に話し合いの場を設けるべきと思うが、実施に向けた考えはいかに	
2 降下ばいじん対策について	1 本市は、全国で数%しかない地方交付税交付金不交付団体になっている等、財源的に恵まれていると考えるが、市南部はその恩恵どころか、半世紀以上にわたり、降下ばいじん公害の被害を受けている。降下ばいじん公害の原因の一つとして、日本製鉄㈱の鉄鉱石・石灰石・高炉スラグ・製鋼スラグ等の粉体の野積みヤードがあげられることから、降下ばいじん対策について問う	(1) 本市の恵まれた財源を生かし、市南部の降下ばいじん公害対策及び市民への被害対応を実施すべきと考えるがいかに (2) 今日まで発生源である野積みヤードを建物で囲む「建屋化」に取り組まなかったことが問題であると考え、日本製鉄㈱に対して、即改善を指導すべきと考えるがいかに (3) 本市は公害被害に悩まされており、公害対策の財源として、国に交付金を要求すべきと考えるがいかに	

<p>3 投票率向上と南北期日前投票所について</p>	<p>1 令和3年4月に行われた市長選挙は投票率が30%台と極めて低い結果となった。先日、市内の高校において、若者の投票率向上のために、模擬投票が行われたことは、大変良いことであるが、その前に、南北に長い本市において、いまだに市北部及び南部に期日前投票所が設置されていないことは由々しき問題である。また、以前ある高校で移動期日前投票所を開設したが、対象者20名中4名のみの利用であった。これらのことに対する選挙管理委員会の考え及びさらなる投票率向上の戦略について考えを問う</p>	<p>(1) 市民の利便性を向上させ、高齢者・若者を含めた投票率改善のため、市北部及び南部に期日前投票所を設置すべきと考えるがいかにか  (2) 小中学校の授業等で、選挙等についての教育は、どのように行われているのか。小学校6年間、中学校3年間のそれぞれで、費やす時間はどの程度あるか  (3) 選挙等についての教育を実施する教師の授業に対する取り組み姿勢は把握しているか。また、どのように指導しているか</p>	
<p>4 議会対応におけるデジタル化の推進について</p>	<p>1 本市議会においては、令和3年6月定例会からタブレット端末の試験運用を始めており、議案等会議資料、議員通知・報告等の電子化を行い、議員活動の円滑化について先進的な取組を始めたところであるが、執行機関における議会対応のデジタル化の考えについて問う</p>	<p>(1) 執行機関における議会対応のデジタル化の状況はどのようなか  (2) 今後、執行機関において議会のデジタル化の推進に併せ、議会対応のデジタル化を図る考えはあるか</p>	

<p>5 道路照明灯・防犯灯について</p>	<p>1 高横須賀町城山地区の道路は、生活道として多数の市民が通行しているものの、道路照明灯・防犯灯が設置されておらず、早朝や夕方以降に視界不良となっていることについて問う</p>	<p>(1) 市内の農道における道路照明灯・防犯灯の設置状況はどのようなか  (2) 城山地区に行って、道路を使用している市民への意見聴取は行ったのか  (3) 夜間は暗くなり、特に車両の通行の危険性が高いと考えるが、道路照明灯・防犯灯を設置してはどうか  (4) 道路照明灯・防犯灯の設置に関して、警察署との協議は行っているのか。行っているのであれば、内容はどのようなか  (5) 道路照明灯・防犯灯に関する住民への説明会を開催すべく要求したが、いまだその返答がなく回答はどのようなか</p>	
------------------------	--	---	--

質 問 者	8 間 瀬 友 浩 議 員 (東海市民の声)		
質 問 事 項	質 問 要 旨	質 問 項 目	備 考
1 社会福祉の充実について	1 障がい者等が移動や施設利用で、割引制度を適用させる際に、障害者手帳の提示による本人確認が割引利用者及び事業者の負担となっている。スマートフォン障害者手帳アプリケーションのミライロIDを活用することで本人確認の負担が軽減され、障がい者の社会参加が更に促進されると考えるが、障がい者福祉の状況及び今後について、本市の考えを問う	(1) 本市が実施している障がい者割引制度の中で、本人確認のために障害者手帳の提示を求めているサービスは、どのようなものがあるのか (2) 障がい者等が割引制度を適用させる際に、障害者手帳を提示している現状について、どのような課題があると考えているのか (3) 障がい者等の本人確認の負担を軽減し、より外出しやすい社会の実現に向けて、国は障害者手帳アプリケーションのミライロIDの周知及び導入促進に努めているが、本市においても障害者手帳アプリケーションを導入する考えはあるか	
	2 内閣府が公表した「令和2年版高齢社会白書」では、平成27年時点で65歳以上の一人暮らしの世帯数は、592万8千世帯であり、令和22年には、896万3千世帯になると予想している。また、地域のつながりの希薄化が年々、進行していることも加わって、孤立死が増加していくことが危惧されている。このような社会状況に対応できるよう、孤立死防止策の強化を図るべきだと考えるが、高齢者福祉の状況及び今後について、本市の考えを問う	(1) 本市における孤立死について、過去5年間の発生件数の推移はどのような状況なのか (2) 孤立死防止に向けた高齢者福祉サービス及び関係機関等との連携について、どのような取組を実施しているのか (3) 高齢者のみの世帯の増加が予想されているが、民生委員及び老人相談員等による見守り訪問等、今後の孤立死防止策の強化について、どのように考えているのか (4) スマート水道メーター等により異変を検知し、高齢者の見守りを実施する自治体もあるが、本市もICTを活用した孤立死防止策を実施する考えはあるか	

<p>2 新しい日常におけるまちづくりについて</p>	<p>1 令和2年から新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、外出自粛や様々な活動がオンライン化したことにより自宅で過ごすことが増え、まちは、経済や生活の基盤としての機能を失うのではないかと危惧されている。国土交通省は、デジタル化の進展や新しい日常を背景に、市民の生活様式や社会環境が急激に変化しつつあり、職場と住居が融合していく職住近接に対応するまちづくりを推進する必要があるという見解を示している。職住近接に対応する動きや様々な要望等の変化に柔軟に対応し、地域活力や賑わいを更に創出することで、持続的な発展を支えるような、まちづくりを推進すべきだと考えるが、新しい日常におけるまちづくりの状況及び今後について、本市の考えを問う</p>	<p>(1) 新しい日常における市民生活の変化を受けて、今後のまちづくりについて、本市はどのように考えているのか  (2) 本市は、国土交通省が令和元年7月から募集を開始したウォーカーブル推進都市に賛同しているが、今後のまちづくりにどのように生かしていくのか  (3) 人流分析カメラを活用したまちづくりを推進している岡崎市のように、ICTの活用によって社会の変化を分析し、いち早くまちづくりに生かせる環境に整備する考えはあるか  (4) 「若者文化の発信によるまちづくりに向けた基本方針」を策定し、持続的なまちづくりを進めている神奈川県川崎市のように、スケートボードやBMX等の若者文化を活用したまちづくりを推進する考えはあるか</p>	
-----------------------------	--	---	--